

事務事業名		成人大学講座事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業																									
政策体系	政策名	016 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間																									
	施策名	215 生涯学習の推進		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和 60年度～)																									
	基本事業名	012 市民の学習活動への支援		☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入																									
根拠法令				予算科目 会計 款 項 目 事業 01 10 05 04 11																									
所属	部課名	教育委員会事務局生涯学習課																											
	課長名	江刺雄輝																											
	係 名	中央公民館	電話	26-3166																									
	担当者	藤原明美	内線	432																									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・中央公民館・図書館・博物館が連携し、市民の学習要求に応じて、専門的分野に関する多様な学習機会を提供し、成人の資質・教養・文化の向上を図るもの。年9回程度の講座を実施している。 ・業務の主な手順は、①三館で学習計画を立案、②講師の依頼、③市民への周知、④学習の実施、⑤学習アンケートの依頼、⑥学習アンケートの集約・分析、⑦事業の成果や課題をまとめ、次年度に向け検討する。 ・事業費は、講師謝金・旅費、消耗品などに支出される。																													
全体計画(※期間限定複数年度のみ) <table border="1"> <tr> <td rowspan="7">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計 (A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計 (B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>						総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計 (A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計 (B)	0	トータルコスト(A)+(B)		0
総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金																											
		都道府県支出金																											
		地方債																											
		その他																											
		一般財源																											
	事業費計 (A)	0																											
	人件費	正規職員従事人数																											
延べ業務時間																													
人件費計 (B)		0																											
トータルコスト(A)+(B)		0																											

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

東日本大震災による事業の見直しにより、前年度同様7月から9月に全6回(各館2回)に実施回数を縮減して実施した。

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

昨年同様7月から9月に全6回(各館2回)実施する。

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

20歳以上の市民

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

- ・市民の学習要求を充足させる。
- ・学習活動を通じて身につけた知識や経験を活かしてもらう。
- ・生涯にわたって学習活動が続けることの大切さを知ってもらう。

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

- ・学習意欲の啓発・向上につながる。
- ・自主的に学習活動に取り組もうとする意識が高まる。
- ・学習成果が社会生活に反映される。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 講座の回数	回
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 成人市民数	人
キ	
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ 講座の受講者数	人
シ 講座の年間延べ受講人数	人
ス 成人の成人大学講座への受講率	%

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)
			単位						
投入量	事業費	財源内訳	千 円						
		国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円		132	171	323	170	
		地方債	千 円						
		その他	千 円						
		一般財源	千 円						240
		事業費計 (A)	千 円	0	132	171	323	170	240
	人件費	正規職員従事人数	人	0	3	3	3	3	3
		延べ業務時間	時 間	0	250	250	250	250	210
		人件費計 (B)	千 円	0	1,000	1,000	1,000	1,000	840
トータルコスト(A)+(B)		千 円	0	1,132	1,171	1,323	1,170	1,080	
⑤活動指標		ア	回	—	6	6	6	6	6
		イ							
		ウ							
⑥対象指標		カ	人	—	32929	32873	32761	32759	34000
		キ							
		ク							
⑦成果指標		サ	人	—	89	80	102	74	100
		シ	人	—	321	280	261	268	320
		ス	%	—	0.60	0.24	0.31	0.23	0.37

事務事業ID	0869	事務事業名	成人大学講座事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
多様化する市民の学習要求と生涯学習時代に即応した専門的かつ高度な学習を提供することを目的として、昭和60年に第1回講座が開催された。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
近年、高齢化や核家族化が進むにつれ社会環境がおおきく変容してきており、講座における受講比率も高齢者の割合が年々高まっている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
参加者は学習意欲が高く、講義内容に対する要望は多様である。アンケートからは引き続き開催して欲しいという回答が多い。また、平日仕事で受講できない成人のために、一部の学習を夜間や休日に実施し、市民の学習ニーズに応えるべきとの声も寄せられている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 市民の学習要求に応じた多様な学習機会を提供し、市民への学習活動を支援することにより、社会性豊かな心を育むことができる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 市民が、市内にいながら、気軽に専門的な学習を受けられる機会は他になく、学習活動の支援という点で講座の開設は不可欠である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 成人市民の学習要求に応じた専門的な分野の学習機会を提供する事業であり、対象、意図ともに適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 成人市民の希望する講義内容や講師の選定をし、魅力ある講座とする。幅広い年代の市民(仕事をしている市民)が受講し易い環境を整え、各年齢層にターゲットを絞った学習内容・開催時間を設定するなどして、参加者が固定化しないようする。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 市民に専門的かつ高度な内容の学習機会の提供ができなくなり、市民の生涯学習のきっかけ作りが減退してしまう。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒【理由】(具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ 専門的で高度な内容の講座をシリーズ化した事業は他にない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 事業費の大半は講師謝金や旅費が占めており、事業費が削減されれば、専門的な知識を有する講師の選定や講義内容が限定されることにより、市民の学習意欲が減退する恐れがある。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 隔年開催とすれば、人件費等は削減できると考えられるが、専門的な学習機会の提供の場が減り、成人の資質・教養・文化の向上に貢献できない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 全市民を対象として実施しているが、平日の日中開催のため、高齢者層で固定化の傾向がある。

事務事業ID	0869	事務事業名	成人大学講座事業
--------	------	-------	----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	幅広い年代の市民に受講してもらうため、平成26年度・平成27年度に試行として、講座を日曜日昼間や夜間に開催したが、若年層・壮年層の参加者増にはつながらなかった。各年代の学習ニーズの把握に努めながら、内容や開催日時等を工夫し、受講生の拡大に努める必要がある。																							
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)		(4) 改革・改善による期待成果																						
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☒ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 三館のそれぞれの分野での専門的な学習内容を継続的に受講している市民に提供し、さらに受講生の学習の満足度を高める。 一方、仕事をしている若年層・壮年層の市民にターゲットを絞った講座(仕事や生活において共通して活用できるような内容)の開設も検討していく。		左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																						
		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 仕事をしている若年層・壮年層の市民にターゲットを絞った新たな講座の開設を検討する上では、受講者の利便性から全講座の開催時間を平日の夜間や土・日曜日開催が効果的であると考えられる。その場合三館の職員の負担増となることから、合同での協力体制がとれるかが課題となる。																								

(職名) ※原則として施策の主管課長		(氏名)
2次評価者	生涯学習課	江刺雄輝

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合		(3) 評価結果の根拠と理由																						
①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		事業目的達成のため、実施方法のあり方が不断の評価・検討が求められる。																						
(2) 2次評価者としての評価結果		(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)																						
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 学習成果を社会生活に反映させるとい意図の達成のため、若年成人が求める学習形態、情報共有のあり方などについて、さらに調査・検討が必要である。																						
		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																						
		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
